

令和元年度第1回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

1 開催日時

令和元年8月27日(火) 10:00～12:02

2 開催場所

広島市役所本庁舎9階 第1会議室（広島市中区国泰寺町一丁目6番34号）

3 出席者

懇談会構成員

団 体 名 ・ 役 職	氏 名
広島県原爆被害者団体協議会 事務局長	前田 耕一郎
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学 代表理事	平尾 順平
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田 浩
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	辻 孝和
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	古谷 章子
広島市市民局国際平和推進部 部長	津村 浩
広島市経済観光局観光政策部 部長	山本 直樹

（計8名、欠席なし）

事務局

観光プロモーション担当課長、課長補佐、主査（計3名）

4 議題

- (1) ピースツーリズムWEBサイトの利用状況について
- (2) 懇談会で提起された意見や提案への対応について
- (3) その他意見交換

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

2名

7 会議資料名

資料 ピースツーリズム推進懇談会（令和元年度第1回）

8 発言の要旨

（原田座長）

本日も、忌憚のない意見をいただき、今後に繋げていきたいと考えており、よろしく願いしたい。それでは、資料全般について事務局から説明をお願いする。

議題（1）ピースツーリズムWEBサイトの利用状況について

議題（2）懇談会で提起された意見や提案への対応について

《事務局から資料に基づき説明》

(原田座長)

先ほどの配布資料について、追加説明をさせていただく。

- ①市長に報告したピースツーリズムの取りまとめ概要についての議論
- ②新聞の切り抜きのうち、基町高校と市立工業高校の生徒が寄付樹木の説明板の設置をしたもの
- ③香川県琴平町のうどんタクシーは、運転手が地域の情報を勉強した上で、観光客の要望に沿って案内しているもの
- ④平和記念資料館のリニューアルオープンに対する意見
- ⑤広島大学旧理学部校舎を今後どうするか
- ⑥観光立国への出遅れについての記事。中国地方の宿泊者は前年より 25%増えたものの、関東・近畿地方の一角にも満たない上、外国人一人あたりの観光消費額は全国 10 の地域の中で最低となっていること。
- ⑦広島城近くの防空作戦室の耐震化についての記事では、管理している緑政課だけでなく観光や平和の各部門と連携して慎重に進めていく必要があるとの緑政課長のコメントがあり、ピースツーリズム事業として展開していくことが必要であると考えている。
- ⑧被爆遺構については、2020 年までには被爆遺構を展示する方向で検討されていることもあり、記事を配布させていただいた。
- ⑨自転車を活用した被爆建物を巡る活動について紹介している記事では、内部が公開されていない被爆建物の活用について記載されているので参考にしていきたい。
- ⑩富山市は、市内のホテルに宿泊すると路面電車の半額利用券（200 円→100 円）を配布する取組を行っている。
- ⑫数年前にアイルランドのダブリン駅、国内では山形県の新庄駅にもストリートピアノが置いてあったが、市民と旅行者との接点になるのではないかと。広島であれば被爆ピアノを設置するとヒロシマを伝える大きな効果的があると考えている。（展示しておくことも大切だが、市民の身近なところで触れることができる。）

(辻委員)

ピースツーリズムのリーフレットは、知っていただくためのツールだと思うのだが、印刷部数は 1 万部で足りるのか。修学旅行生だけでも年間 32 万人来広している。高校生などはグループで行動するが、グループに 1 部配布すると 5 万部で足りる。せっかく作ったいいものを、もう少しまく配布していただきたい。

外国人に対してのリーフレットは、それぞれ思考の仕方が違うため、違ったパターンで作られるのはよいと思う。広島市内中心に作成するとのことだが、広いエリアであってもよいのではないかと。広く見ていただく事で宿泊に繋がるのではないかと。

(平尾委員)

3 ページのツーリズムの WEB サイトの利用状況のところ、ページビューであるとかユーザー数（ユニークユーザー）を詳細に出しているが、2 つ伺ってみたい。一つはここにはない情報だが、まず、このピースツーリズムのサイトを見に来る前にどこから来たのか。グ

ーグル検索から来たのか QR コードからダイレクトに来たなど、その前の情報を見れば、そこに効果的に広報を注力すれば広がりやすいのではないかと思います。

もう一つはこのサイトの使われ方だが、このサイトを見ながら道を歩かれたのか、もしくは何か興味として、サイトを見られて終わりだったのか。

ページ数は、一人当たり 4 ページと出ているが、ページ全体の滞在時間は、1 時間見ていたのか、30 秒だったのか、その辺を見ることができれば、サイトがどういう使い方をされたのかという分析ができるのではないかと思います。もし今回そういう分析ができていなければ、今後、そういう分析もできれば、サイトの使われ方が明確になると思う。

(前田委員)

よく頑張って来られたと思う。マップとかもよくできていると思う。これを見ながらお尋ねですが、ピースツーリズムのサイトの中で、マップは見られるようになっているのか。(事務局：見られます。) 了解した。

紙のパンフレットは、大抵、現地に来てからもらっているが、その前に場所などが確認できるとベターだと思っており、それが見ることができるようになっているとより良いのではないかという観点からお尋ねした。今のお答えでよい。

(渡部委員)

まず、資料館の本館についてお話したいと思う。今回、平和記念資料館の本館がリニューアルオープンしたが、素晴らしい内容だと思う。でも何度か行ったが、問題点があると思う。

何回でも入場できるとおっしゃるのだが、そのアナウンスが一切ない。何回でも入れるということ伝えて、資料館の本館を見た後に、ほかの場所に行っていただき、また、気持ちを新たに何度でも見ていただくことで、資料館の滞在型がそれで可能になるのではないかと思う。

それからもう一つ、東館の展示が、本館がなかった時のための展示であったため、非常に文字が詰め込んである。大事なインフォメーションがいっぱいあるが、文字が詰め込んである状況では、もう見る気力を失ってしまう。新聞の中にもあったが、加害・被害あるいは世界状況、核廃絶への取り組み等を見ないで多くの人が出て行ってしまう。さらによりよい資料館造りを目指して、動線であるとか、あるいは滞在型、市内を循環していただけるよう、インフォメーションも含めて、全体的な資料館の見直しに着手した方がよいのではないかと切実に思う。

それから、もう一つある。ピースボランティアは素晴らしいと思うが、ここまで国内外の方がいらっしゃれば、やっぱり有料のプロのガイドが必要だと思う。アウシュビッツにしても国連にしても非常に深い知識と経験を持った有料のガイドがいらっしゃるので、そういう制度を作る必要があるのではないか。

引き続いて言うと、私のところに何名も学校の先生から悲鳴の電話がかかってくる。修学旅行で班別行動を希望しても、ピースボランティアや観光ボランティアがいないという現状

がある。修学旅行の誘致と合わせて、誘致した修学旅行生にきちんと対応できる体制を作っていかなければならない。迎える広島市の体制として大きな不備があるように思う。

夏の対策で残念なことがあった。資料館の前にテントだけは設置されていたが、テントの中は温度が上がり、資料館の入館を1時間以上待っていて倒れた人がいた。暑さに対する対応策が練られていないと切実に思った。

こうしたことから、資料館や平和記念公園を訪れた人も、休憩できる場所が必要ではないかと思う。暑い時や寒い時、皆さんに少しでも資料館を見ていただくまでの間に、気持ちよく待っていただく場所がいるのではないかと。

それと素晴らしいパンフレットができた。私も是非いろんな方に紹介したいと思い、平和公園内の観光案内所を訪ねたが、担当者の方が知らなかった。WEBサイトも知らなかった。小さなところに新宿するという。ホスピタリティとはそういうことではないかと思うと、やっぱりまだまだピースツーリズムの取組みが浸透もしていないし、周知徹底ができていないと思う。

一方、この広島市の市民と市政（7月15日号）の広報はとってもよかったと思う。とってもよく工夫して。でも1回では足りないと思う。何回でも広報を打って、初めて「迎える広島」が実感できるのではないかと。

（古谷委員）

この日本語のパンフレットは、とてもよいと思う。WEBサイトの英語の内容はコンテンツとしてとてもすばらしいので、今度、英語版のパンフレットを作られる時には、使える情報は使ってあげたらいいと思う。

それから資料の10ページの広島大学の国際シンポジウムに出席した。その中で志賀前資料館館長が、とてもいいプレゼンテーションをされた。実は4年前、被爆70年の時にリニューアルのために資料館がクローズした際、「本館が、どうしてそういうことなるのか」と激しく市の体制を非難した。今回4月25日に本館がリニューアルオープンをして、このシンポジウムの際に志賀前館長の思い、あの4年前の発言を反省している。資料館は、すばらしい出来になっていると思う。

通訳ガイドの仲間達にお客様を案内して資料館の感想を聞き、改善点についてアンケートをとったのだが、展示の表示が下の方にあり字が小さいため、もう少し見やすくしてもらったらいいいという意見があった。

もう一つ、本館の展示をご覧になって、とてもつらくなり座り込んでしまう参加者がいらっしゃるの、以前の資料館のように途中からちょっと出ることができる、エグジット（一時的に出られる出口）を作ったらいいいのではないかと。

それから、広島宿泊者数が少ないことについて、これを改善する4つのコンテンツがある。

1点目は、縮景園の早朝開園。特に欧米の方というのは、バードウォッチングや自然を見ることが大好きなので、観光客がたくさん来られる9時などではなく、朝7時などに縮景園を開けてもらえるなら、自分が好きな鳥、樹木、あるいは池の写真が撮れると思う。

それから2点目は、魚市場。築地のフィッシュマーケットは、豊洲に変わって、全然魅力がなくおもしろくない。今、築地に場外市場は以前から人気があり、お客様は満足されるので広島でも魚市場を開けて欲しいと思う。

3点目は、夜神楽。以前、クルーズ客船に同乗して日本中を回った時に、広島港だけ歓迎行事がなく、本当に残念でたまらなかった。その後2009年に1万トンバースで神楽が上演され、これが大成功だったので、現在、水曜日に開催されている県民文化センターの鯉城会館の神楽につながっている。

4点目は、広島から海外に移民に出かけた人達のルーツ探し。例えば曾祖父が広島出身だがきちんと調べたいといったニーズがあると思っている。その人達のための資料館があればよいと思う。日本のバブルの時に広島に移民の歴史の資料館作るために集めた資料がどこかの倉庫に眠っているという話を聞いた。それをどうにか整えて欲しいと思う。

最後に2016年から始まって、現在も盛況の「An Evening of Kagura」のアンケート結果を紹介する。夜神楽の情報をどこで知ったかという質問では、やっぱりSNSやWEBという答えが多く、特に「Visit Hiroshima」と「Get Hiroshima」が圧倒的に多い。それから、Facebookを見てここに来られた人達が、インスタグラムで発信もしている。

またこのアンケートでは、「何日ぐらい広島にいるか。」という質問に対して、短期間の滞在といった答えも多いのだが、「2年間、広島で働く。」や「3年広島にいる。」といった声もあり、長期で滞在される人達も多いことが分かった。こういった人達に広島の魅力を知ってもらい、自分の国の人達に知らせてもらおうと、とてもパワフルなコンテンツになると思う。

また同じアンケートで「どこに泊まったか。」という質問では、観光客が泊まる宿泊施設として、ホテルよりゲストハウスが多いということが分かった。このピースツーリズムのWEBサイトについてもゲストハウスの人達にきちっと伝えれば、滞在者が深く知ることができるのではないかと思った。

(津村委員)

日本語版のリーフレットとWEBサイトについては、徐々にその周知効果がここを出てきていると感じた。一方で委員の方から意見があったが、まだまだ周知が足りないと言う方もおられ、確かにそうかと思った。我々としても観光政策部と連携して、周知や研修、イベント等でリーフレット・チラシを配ったりはしているが、さらに強化を考えてみたいと思っている。

また、リニューアルした資料館について意見いただいたが、まさに今回のリニューアルの大きな柱の1つ、目指すところは、被爆の実相を1945年8月6日に広島で何があったか、それも人への被害・影響、それは8月6日だけではなく、その後の人生にどういう影響があっ

たかということ、一人一人の人生に向き合っていただきたいという思いで、力を込めてあいつた展示にした。

ただ指摘のように本館で、東館も見るエネルギーを消耗してしまうということで、すべての展示を見ていただけない方が多くいらっしゃるということであれば、それはそれで資料館の目的が一部果たせてないということになるので、その辺りを資料館とも話し合いをしていきたいと思っている。

実は本館のギャラリーだが、そのベンチで平和記念公園の緑を見ていただいて、体と頭と心を休めていただいて、次の東館に行っていただくために、展示室を出た後にある平和記念公園が見える広い通路にはベンチを設置している。あそこに展示を置いてないのは、ちょっとそういう意味がある。

そこだけでは、エネルギーの復活にはちょっと足りないのかもしれない。回っていただく中で、また復活していただくようなこともできないか考えていきたいと思っている。

ピースボランティアの有料ガイドについては、現時点で市の方針としては、ピースボランティアの皆さんをまだ育成・養成のためのガイド研修や英語研修をしているので、そのプロのレベルと比べてという観点もあるかもしれないが、今のところ本市としては、ピースボランティアの評価も割と高い評価をいただいていると思っている。ボランティアの皆様には、更にレベルアップをしていただき、対応していただくという方向性で続けていきたいと考えている。いただいたご意見は、将来的な検討課題としては持っておきたいと考えている。

また、夏の対策は実施しているが、倒れられた方もいらっしゃるということで、来年の夏に向けて何か工夫ができないかと考えたいと思う。

本館リニューアル後のゴールデンウィークで非常に大変混雑した4月29日に、入館制限した。その経験を踏まえて、この夏のお盆の時期、8月10日から18日までの期間は、午後8時まで開館時間を延長した。混雑はしたが、待ち時間が最長1時間程度で入館いただくことができ、開館時間の延長は効果があったのではないと思う。また、外で待っていただいている間の暑さ対策については、検討課題にしたいと思う。

古谷委員の意見の中で、留学生へのピースツーリズム周知については、留学生会館の留学生に平和都市広島を平和をもっと学んで帰っていただきたいという思いはあるので、我々も協力しながら留学生に意見を聞いてはどうかと思った。

(山本委員)

この4月から観光政策部長に着任した山本です。どうぞよろしくお願いします。この度の懇談会では、今までの懇談会の中で委員の方々からいただいた、特に情報発信、それから市民・民間との協働体制の進捗状況ということで報告をさせていただいた。4月以降、庁内のいろいろな関係部署と話していく中で、このピースツーリズムに対する庁内の関係課の認識や理解がかなり進んできているのではないかとということを実感として持っている。

この度は「市民と市政 7 月 15 日号」で、大きな誌面を取って PR を行ったことで、ピースツーリズムの重要性について、かなり庁内的にも認知されてきているのではないかなという気がしている。

今回報告した中でも、特に市民、ボランティアの方との協働ということで、学生や伝承者の方あるいは記者の方との連携を広めていくということで、我々としてもこのピースツーリズムの裾野を広げていくような方策をしっかりと考えていきたいと思う。

一方で、ウェブサイトの発信にしても、パンフレットの活用にしても、まだまだこれから工夫しなければいけないという部分は確かにあるだろうと思う。そういったところは改善を進めていきたいと思っている。

それから、古谷委員から観光立国について話があった。広島市は 7 年連続して外国人の観光客は増えているが、観光消費額は横ばい状態になっているという事実がある。紹介いただきました縮景園の早朝開園や神楽、あるいは魚市場等々、非常に重要な視点なので、広島県とも連携して滞在型の観光振興、特に夜の観光コンテンツをしっかりと作っていくということに、現在力を入れているところである。

併せて、特にインバウンドの観光を振興していくという観点から、観光資源だけではなく、観光客の方が快適に過ごしていただけるような環境づくりやストレスなく周遊できるような環境づくりなど、ピースツーリズムに限らず、観光政策全般として取り組んでいきたいと考えている。

(渡部委員)

津村委員から大変、前向きに言っていただき嬉しく思っている。私がプロのガイドについて言及したのは、放射線の影響だけではなく広島食べ物など様々なことについて専門的に深く知りたいというニーズが結構ある。ある程度の歴史的な観点からの知識の蓄積をもって、専門的な話ができる方が必要だと実感している。

それから資料館の点について話したのは、見学の途中で資料館から出て、川の側で休むなり、被爆樹木を巡るなり、あるいは広島の歴史を見るなり、美術館に行くなりして、周遊していただける仕組みと合わせることで、一日広島に滞在し、泊まってくれる。その時に広島の食を通して市民と触れ合ったり、戦前の広島城があった城下町の歴史と今日の広島と両方、あるいは移民県だった広島、また中国残留孤児数が全国で 2 位である広島、そういう広島にも触れていただいたらいいと思う。

それから先ほどのプレートについても、現在設置している被爆樹木のプレートは、すべて広島東南ロータリークラブさんがすべて提供していただいた。そういう団体が広島の市内にはたくさんあるので予算が限られているところは、そういった団体と協力して、ともに広島の中の案内板を作っていくようなこともピースツーリズムが浸透していく一つの方法ではないかと思う。

それから最後に、ピースツーリズムについてピースボランティアさんや他のいろんな皆さんにどういうふうに紹介してらっしゃるかを知りたい。こういうウェブサイトができた。こういうすばらしいリーフレットができた。これがピースツーリズムの取り組みですとだけ伝えたのでは、片手落ちだろうと思う。なぜ、ピースツーリズムというものを今、広島市がやっているのかということを、きちんと皆さんのところで説明をすることがピースツーリズムの本質的な広がりを生むのではないかと思う。

(原田座長)

私も今年度入って、できるだけいろいろな講演会に出席したり、新聞取材に対応するようにしている。そこで気になっているのがシンポジウムである。大学、行政、講演会などで出てきた提言をしっかりと受け止めて、実現するという方向に持って行くという姿勢が必要であると思う。

そういう意味から考えると、このピースツーリズム推進懇談会というのは、提言を具体化するために、フォローするという形で力添えをしていくことが一つの大きな意味になると思う。懇談会が、関連部署をつなぎ合わせて一体化して対応してきたことは非常にすばらしいことだと思う。そういう努力を重ねてくださる皆さんに対しては改めてそういう思いを共有したいと思う。

それと私自身が被爆体験を持っているだけに、資料館の展示を見ながら思うのは、本館の展示は、子供の衣類を並べただけで、説明を加えず、来館者に想像してもらいながら考えてもらおう、そういう形でまとめられている。

あの衣類は当時どういう人が着ていたのか、手足がもぎ取られたり、皮膚が溶けて流れたりして頭が二つに割れたりする人がおられたことを思うと、今の展示からそれを感じることは到底難しいのではないかと思う。

また、被爆直後の広島市街地の惨状で、もっとも印象に残っているのが臭いの問題だ。炎天下の中で人体が腐っていくとどういう臭いがするのか。一度嗅いでいただきたいと思う。実際にそれをやったら、たぶん資料館には誰も入れないと思うが、被爆体験というのは、そういうものだということを少しでも近づけた格好で何か表現して欲しかった。

改修後の資料館は、最新技術を駆使したすばらしい施設になったが、被爆者の体験したことを実感できるような展示につなげてもらいたいと思う。

前の館長も今回の改修が、被爆者にとって最後の展示だと言っているが、私は最後の展示になっていないという危機感を感じている。やがて被爆者がいなくなったときに広島がどういう格好でメッセージを世界に発信していくのか。早急に考えるべきではないか。

このピースツーリズムのあり方を確認し、次に繋げていけるような場にして欲しいと思っている。

議題（３） その他意見交換

（原田座長）

平和と文化の一体的な中心になる広島市については、まだまだ実現にはもう少し時間がかかるのではないかと。平和行政の中に文化の推進を加えていくことは、市長も非常によいと言われており、とりわけ文化をこれからしっかりと広島に根付かせたいということで、広島城の活性化や、広島城周辺の今後のあり方、つまり平和記念公園と中央公園との結びつきということも含めて、ピースツーリズムでは、音楽にしろ、芸術にしろ、そこらを中心とした文化振興とつなげていくということを考えていきたい。まだまだ道半ばというか今は最初の段階なのではないかと思っている。

それから、気になっているのは、資料館と広島城と現代美術館で共通入場券を作るという動きがあったが、最近の情報として自分自身がつかんでいない。ＪＲバスとのいろんな議論の中で、そういったものが作れるなら、割引乗車券というものを考えてみたいという意向も、ＪＲバスのほうから聞いているので、その共通入場券というものができうるならば、それも一つの周遊するためのきっかけづくりにつながっていくのではないかと思っている。

いろいろな議論を重ねながら、皆さんに情報提供したいと思うが、ご承知のとおり、基町高校の生徒が被爆者を描いた絵を創ってくれている。この８月にも国際会議場で、その展示をしていた。実は非常に地味ではあったが、たくさんの人がやって来て、たくさんの感想を、述べてくださった。基町高校で今までおそらく１４０枚ぐらい描いてくれていると思うのだが、高校生もずいぶん悩みながら１枚の絵を完成するという過程を、私も自分の目でしっかりと見ているので、高校生がそこまで取り組んでくれるというその気持ち、これは描いた絵ということもさることながら、高校生たちがその仕事に取り組んでくれるというその姿勢が、体験継承の大きな意義になるのではないかと思う。

舟入高校についても、特に演劇部の先生がいらっしゃるので、原爆劇を毎年上演されている。商業高校ではピースデパートということで、東日本大震災が起こった地域の製品を取り寄せて、広島からも応援をしたいという努力も重ねてきていると聞いている。

それから、資料館と関連する施設というのは、被爆遺構等の発信力の強化。これは、皆さんの議論もいただきながら、本川小学校が４月から休日開館につなげてくれたものだが、やっぱり現場の皆さんの意見を聞いてみてすごく思うことは、なかなか学校教育の中でこういったものを身近にするというのは非常に難しいというか、少し専門的な分野から充実していくことが必要ではないか。関係部局が連携をしながら、より広島として発信力を強めるための方策が必要だと思われる。館長も前向きな検討をしてくれているようなので、そういったこともそれぞれ解決していきたい。

最近の状況について、皆さんにもお話ししたことがあるが、幟町小学校の中に禎子のコーナーができた。これは学校施設の中なので、簡単に一般開放することは難しいと思う。

幟町小学校もさることながら、例えば白島小学校、段原小学校などでも被爆資料を中心とした展示、あるいは地元と協調して発信力を高めるなどの方策を検討されている学校もあるように聞いており、我々でできることがあれば、一般開放につなげていきたい。

それから「市民・民間等との協働体制の構築」については、残念ながらほとんど手付かずの状態になっている。市民参画をどうするのか、推進していく母体はどうあるべきなのか、あるいは、市民の皆さんとどういった格好で協調・協力で体制ができるのかを今後考えていかないといけない。

それから、拠点施設の問題。これもほとんど今手がつけられていない。市民の皆さんとの接点はどうするのか、どういう格好でどこか設置主体になるのか、あるいは場所をどこにするのか、活用方法はどうか、そしてその管理体制の問題など拠点施設の確保については大きな課題がまだ残っている。

それから最後の「今後の事業推進のための関係機関との調整・チェック機能の構築」、これは観光政策部の方で担っているが、いつまでこの体制でいくのか、今後どうあるべきか、そういうところの議論が必要なのではないかと思う。

2年半ほど御協力いただいたこの懇談会のあり方、それは来年度以降どうあるべきかを含めて、残された時間で議論していきたいと思う。

(辻委員)

座長の意見が5項目ほどあった。もう一つの資料のところでは取りまとめ内容があるが、これを見ると、懇談会で検討し、形となったのは、「ルートの設定の基本的な考え方」とか「提案ルート」、これだけが今、パンフレットの形になったのではないかと考えている。

本当はこれからが始まりで、ピースツーリズムを継続していく必要があると思う。例えば来年、被爆75周年、オリ・パラの年でもある。報道によると広島市と長崎と一緒に写真展などをやるという話も聞いているが、広島市自体として何をするのか私達が知らない、広島市の各部局でいろいろな計画考えられているのを私どもが知らないのもピースツーリズムとの関連性につかない。関連の有る来年度事業や予算について懇談会の委員が知っていれば、継続したピースツーリズムが促進できると思う。

来年度計画策定というのは目の前に来ている。予算も、恐らく10月までに計画骨子を決定しないといけないと思う。先ほども言ったが、ピースツーリズムマップのツールが出来た、これを今後どうして情報発信していくのかと、情報発信の仕方は違った形で、このパンフレットにとらわれずに何かいろいろな形で、ピースツーリズムを知らしめていく必要があると思う。具体的には何がいいのか分からないが、例えばオリンピックで世界中から来るアスリートに折り鶴を折ってもらって、どこかに送ってもらうか、持参してもらうとか、そういう、いろいろな方法があると思う。これまでの取りまとめの中の一つ一つを継続しながらやっていく必要があると思う。

(平尾委員)

私のほうは、座長に言っていたところを言うと、「市民・民間等との協働体制」のと

ころです。市民団体として活動している中で一番に関わりたい、関わらなきゃいけないと思っているのだが、そもそもこのピースツーリズムという概念自体はすでに後発というか、これまでいろんな平和に関わる活動をやってらっしゃった方もある中で、今回はピースツーリズムという言葉・コンセプトをある意味で「プラットフォーム」として用意した状態だと思う。このため、そもそもこれまでどんな活動が行われているのかとか、それらの活動と、このピースツーリズムとをどう連携させていくのかを考えると、まずはこれまで、もしくは現在、行われている活動を把握することが必須だろうと思っている。

sokoiko! (ソコイコ)さんの自転車ツーリズムのことが出ているが、こういった活動たくさんあると思う。で、新しいものをつくるだけではなくて、そういった活動とどう連携するか、そういうところにどう支援をするかということも大切だと思う。このピースツーリズムとして新しいものをつくるだけではなくて、そういうサポートも大事なのではないかと思うので、まずはそういうものを可視化するというところから協働体制の構築というのはできるのではないかなと思っている。

もう一つは、そういったもの同士での、活動同士の情報共有の場というのも大切だと思う。まずは、行政主導で立ち上がっている当該懇談会だが、私たち市民が取り組んでいかないと、街のものにはならないと思うので、そこをどう私たち自身の日常に落とし込んでいくかということを考えたいと思っている。というのも、先ほども紹介いただきました国際会議場で行われた広島ピースツーリズムの国際シンポジウムの時にも、前館長がすごく大事な点として、こういうものにおいては現地・現物・現人間との出会いが大事なのだということをおっしゃっていて、すごく共感したのだが、やっぱり私たち市民が今どう、この広島で生きていて何を考えているかということに触れていただくというのは、まさにピースツーリズムにおける一番大事なことの一つなのではないかと思う。ぜひ、私たち市民自身とどうツーリストたちが会えるか、観光客の皆様に出会えるかという関係性をどうつくるかということに絞っていききたいと思っている。

あと一つだけ、拠点施設においてもゲストハウスが一つの起点としてツーリズムの発着点になっていくのではないかと思うので、そことの連携というのも今後必要なのではないかなと思っている。

(前田委員)

とりとめもなくなってしまうが、先ほどの原田座長がおっしゃった資料館の展示に関して、今現在も、不満があるのが、「におい」と言われたが、それは私も、何人かの被爆者に聞いたことがあって、「資料館の展示を見ると、確かにひどいという状況は分かるけども、そこにはにおいが無い」と。「あのにおいは分からんだろう」と言われたのがとても記憶に残っている。そういう意味でいうと、「においというのはここに示してないのだけども」とか、ひどい状況があったのだということは何らかの形で見る人に伝えるっていうことも大事なだろうと思っている。こういうことも含めて、ピースツーリズムであれ、それから資料館の展示であれいろいろなところのことにに関して、いろんな指摘があったりしていますけれども、その資料館をはじめ、いろんな施設や担当が指摘を受けたことをしっかりと受け止めて、それぞれについてできることを対応していくと、そういうことが一番大事なのではないかと思

う。途中で出るとか何とかってということも含めて、できることをしっかりと対応していく。それから資料館の展示についても、これで一応完成形ではあるけれども、できる手直しは加えていくということが大事なのではないかと思いながら聞いていた。

それから、被爆遺構について、中国軍管区（司令部跡）の保存をどうするかという指摘もあったりしたのだが、ピースツーリズムだけでもいいのではなく、平和関連とか被爆をどう伝えていくかということで考えると、まだ残っている遺構とかはいくつかあるはずで、それをどのように捉えてどこをどう残していくのか、場合によっては、中国軍管区はもうとても危険で使えないから、お金は使えないと。であれば、比較的人が来る場所に何らかの形で何かを残していく。そんなことを総合的にまとまって考える場が必要なのだと思う。そういうことはツーリズムあるいは平和推進、平和を伝えるという観点から、そういう部署も関わってどう考えていったらいいのか、あるいは、いく必要があるのではないかと思いながら考えていた。

それから、「市民・民間等との協働体制の構築」だが、平尾さんがおっしゃったいろんな参加というか、これまでのことをあるいは市民との関わりということで、ピースツーリズムはこういういろいろなのを載せたしっかりしたものができたので、これからは民間がやる事業についてもこれに関係があるのであれば、枝付けしていくとか何とか関わったものにしていくような仕掛けもあっていいのではないかと思った。

最後に、この参加者名簿を見ると、私は被爆者団体ということで参加している。それを振り返ってつらつら考えると、あまりにも人を呼び込む、人に見てもらおうということだけに自分の目がいっていたと反省している。

それから言うと、水野潤一さんという人が作った詩で、広島はとにかく「しづかに歩いてつかあさい」という詩がある。「このまちは、昔はいろんな苦しみがあったとこだし、人が死んだりしたとこだし、だから今ここを歩くときは、どうぞ『しづかに歩いてつかあさい』」という詩である。

何が言いたいかというと、このピースツーリズムのどこかに、広島は被爆したまちであることは間違いなく出ているのだが、広島がそういうまちであると、たくさんの人が死んで、被爆者の中には、平和記念公園を歩くときには静かに願いを込めて歩いてほしいとか、広島ではたくさんの人が亡くなったことをしっかり受け止めてほしいと、そういうことがわかるような、言葉で書くのか何か仕掛けというか、一番底の部分に「しづかに歩いてつかあさい」という言葉に通じるような何かがあってほしいと思っている。そのことを付け加えさせてもらう。

（渡部委員）

今、前田さんがおっしゃった「しづかに歩いてつかあさい」っていうの、すごい心に響くと思ったのだが、例えばこのパンフレットの中に一行でもあると、何を皆さんに伝えたいのかということがわかるという気がした。さっき座長からいろんなお話を聞きながら一番に思ったことは、ルートを巡って何か目的を持って歩くというふうになっているが、私はやっぱり、広島のまちっていうのは大きな墓なのだろうと思う。それをやっぱり忘れたらいけない。そしてその墓の上をできるだけたくさんの人に、いろんな思いを持って歩いていただけると

いうことであればいい。でも私は、これは自分の勝手な思いだが、亡くなられた皆さんはもちろん未だに怒りをもっていらっしゃると同時に、本当に優しく今生きている者を見守ってくださっているのではないかと、その両方があるのではないかと感じており、できればこの広島をできるだけ自分の足で歩き感じていただいて、そしていろんなものを見て学んでいただき、自分の心の中に刻んで帰っていただけるような、そういうピースツーリズムにしていきたい。そして本当に大事なことは2020年が来て次の2025年までのこの5年間しか、もう高齢化していらっしゃる人から直接声は聞けないということになると、正念場であると。この正念場の5年間に「ピースツーリズムをもうやめるのか、これ作ったからおしまいなのか、それで広島市はいいのか」という気がする。

ピースツーリズムを超えて、超えてというか、ピースツーリズムということであってもいいのだが、これからの広島をどういうふうに私たちはつくっていったって、皆様に理解して、伝えしていくのかという、その大事な話がきちんと官民でできる場がないと思う。唯一、私はこのピースツーリズムの会に出て、そういう場の一つになっていると思ってきた。それが今後どういうふうになるのかということは、広島市と私たちとの関係も含めて、すごく大きなことではないか。それをこの一つの課では担えないというのではなく、この一つの課が先導して、市役所の本庁の中を結びつけて欲しいと本当に思う。きちんと市民も入ってこういう議論ができる場は、今、数が少ないので、この貴重な場を提供してもらっていると私は思っている。そういう意味からこれから先のピースツーリズムのあり方、この懇談会のあり方も考えもらえるとありがたいと思っている。

それから、平和と文化ということですが、基町高校の高校生の絵が国際会議場で展示がしてあったので、見に行かせていただいた。よく描いていると思った。横にいろいろ描いたときのことを書いてあったのだが、これだけの力作をしかるべきところできちんと皆様に提供していただけたらいいと思った。ギャラリーでも何でもなく、普通の会議場の中の部屋にこうキャンパスに描いてある。でも、ここまで一生懸命若い人たちが心を砕いてやったものを見ていただく場をやっぱちゃんと用意して、そこへいろんな方が足を運んでいただき、一生懸命受け継ごうとしているということを見ていただけるような場があると、広島においでになった方が被爆の惨状とともに受け継ごうとする市民というか、若い人たちのその姿を見て、これもまた感銘深く帰られると思う。世界中の紛争地やいろんな皆さん、あるいは自然災害地の皆さんがどうやってそれを次に伝えていくかというモデルを広島に求められることが多い。そういう意味でもこちらからの提案の一つにもなるのではないかと考えている。

それと最後になるのだが、文化に関しては実にたくさんの皆さんが、市民演劇という朗読などの活動があったりするのだが、そこへ外から来られた人が行き着けてない。それがすごく惜しいと思っている。この演劇は水準が非常に高い。そこへ行き着けるような道をピースツーリズムの中でつくっていくといいと思う。

(古谷委員)

1番目の「平和と文化の一体的な推進によるヒロシマの発信」のところで考えることがある。18日に、高知港に大きなクルーズ船が来た。2500人ぐらいの定員で、そのお客の中に、港からバスで片道2時間のところにあるモネの庭を見に行きたいという人が、急にガイドが

もう一人必要になり、「古谷行け」と金曜日に言われた。金曜日に聞いて日曜日に。「えっ」と思ったのだが、まあ試練だと思って行った。そのときに感じたことだが、モネのジヴェルニーのお庭の、フランス以外で「モネの庭」と名乗ることを許されている唯一の場所で、本当に何もなかったところ。高知市内から2時間で、本当はワイナリーを造る予定が、バブルがはじけて、買った土地はあるけどどうしようというときにお庭を造ろう、一生懸命頑張って造られて、それが本当に魅力的なところになっている。お庭があるのだが、モネの「ウォーターリリー」の同じようなレイアウトで植えてあって、本当にすばらしかった。

それで思ったのは、広島にもひろしま美術館というのがある。モネの「ウォーターリリー」をはじめ優れた印象派の作品が展示されている。それ以外にも広島には県立美術館、現代美術館、合計3つの美術館がある。それが全く生かされていない。

今年1月9日にニューヨーク・タイムズに記事が掲載された。「2019年に訪れるべき世界の52箇所」で日本では唯一、「セトウチ アイランズ（瀬戸内海の島々）」が選ばれている。その理由が瀬戸内国際芸術祭です。それとあと、平和記念資料館のリニューアルオープン、「Guntu」という船、宿泊施設になった観光船です。それらが選考理由にあげられていた。3年に1回開かれるのですが、瀬戸内国際芸術祭は本当にすばらしい。

広島には、それに負けないだけのコンテンツというか3つの美術館があるにも関わらず、その情報発信が全然うまくいっていない。ひろしま美術館のモネの作品、できれば北川村のまねをして、美術館の池に絵の「ウォーターリリー」と同じ情景を再現するのはどうか？あと北川村のモネの庭の売りは、青い睡蓮が7月から10月にしか咲かないということで、訪れた際に300本咲いていたのだが、それを見に行きたいという人が多くて、わざわざ追加のガイドとして広島から出かけることになった。

ひろしま美術館、それから県立美術館には平山郁夫先生の作品がたくさんある。それとあと現代美術館。この間まであった現代アートの展示もとってもすばらしかったし、私が思っているのは丸木位里御夫妻の作品とか、あるいはそれこそ基町高校の創造表現コースの学生たちの作品とか、それを展示することがいいと思うし、近くにまんが図書館があると思うのだが、そこで「はだしのゲン」の展示をすとか。そういうものをきちんと狙いを定めて、テキストをきちんと作って、発信するコラボが大事だと思う。芸術の関係で3つの美術館をきちんとまとめて情報発信する。それが大事なことだと思う。

（津村委員）

いろいろ委員の皆様の意見を伺いながら、そうだなと思いながら聞かせていただいた。また、ちょっと行政としては重たい意見もいくつか頂いたと思っている。資料館に関しては、いったんの完成形ではあるが、これが最後というわけではないので、いろいろ来館者その他、市民の方、被爆者の方々の意見もお聞きしながら、いつかの時点で、ある程度の見直しというのは必要となってくるだろうと思っている。そうした際にそういう声は生かさせていただければと思っている。

「におい」については、ちょっと具体的にどういうやり方があるのかは、今はちょっとコメントがいたしかねる。

それから、被爆75周年と東京オリンピックのことがちょっと出ました。被爆75周年とい

う意味では、全市を挙げてというのは大体 10 年単位で、被爆何十周年のときにやっている。また、2020 年に 2020 ビジョンを掲げてやってきたが、目標年でもある。ただ現状はもう言わずもがなだと思うが、2020 年までに核兵器廃絶という目標の達成というのは、それは非常に厳しい状況ですので、2020 年以降も、市としては核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて、ますます取り組んでいかないといけない、そういう思いでいる。

その中で 75 周年という一応節目の年であるし、オリンピック・パラリンピック開催もあるので、平和推進部門としては、当然予算要求を考えているが、今からになる。

今のところ考えているのは、東京での、「原爆・平和」展を都内 2 箇所で開催したいと考えており、1 箇所は文京区のシビックセンターという大きな会場を借りて、そこでオリンピック期間中に、「原爆・平和」展の開催を今調整している。

それから広島での取組というのは、オリンピック期間中に選手や大会関係者等に呼びかけて、広島に来ていただく。広島に来られたら、基本的には平和記念公園になると思うが、資料館、体験証言聴講等とセットメニューで提供するので、どうぞお越し下さいという取組をぜひやりたいと思っている。せっかくの機会なので、できるだけ多くの方に来ていただきたいと思っている。

それから、75 周年、2020 年のためにというわけではないが、タイミング的に合いそうなので頑張ってみようとしているのが、旧中島地区被爆遺構の展示整備である。今年度 6 月補正予算で設計費も認めていただいたので、確認調査という発掘調査を継続してやっているところで、近々、第 2 弾の拡張調査を実施する。

第 1 弾は 5 月から 7 月まで実施し、7 月 7 日に現地見学会をさせていただいた。もう少し広げて範囲を広げていきたいと思うが、なかなか勝手にどこでも掘っていいわけではない。国の名勝であるので、文化財保護法の制約の中で行う必要があるうえ、発掘イコール破壊・劣化が進むので、非常に慎重に進めなくてはいけないということだが、段取りを組んで近々第 2 弾の拡張調査をしようと思っている。その結果をもとに展示・整備の方向性をまとめ、今年度中に展示の施設の設計に入りたいと思っている。

来年度、できれば 8 月 6 日までに展示と思っており、2020 年度内に展示・整備するというのが公式発表であるが、できれば何かしらの形でそこを目標にしたいと思っている。

それから、今後継承というのがますます重要になってくる。特に若い世代。継承というのも力を入れていきたいと市として思っている。ヒロシマ・ナガサキでは、平和教育というのが小さいころから小中高とやっているが、修学旅行に来られている学校も平和学習をしている。全国的にますますもっと広がっていかないといけないと思っており、8 月 6 日の平和記念式典を核として、式典に来ていただく他の自治体からの青少年を増やし、広島の青少年、子どもたちとの意見交換の場を増やしていきたい。そういったことを、被爆 75 周年を契機に取り組んでいきたいと考えている。

それから連携についてだが、文化もそうだし被爆建物もそうだが、一つ一つの案件でいろんな要素、複雑な要素が絡んで、なかなかすっきりとスムーズに進まないという印象をお持ちではないかという気がしている。その中で我々としては、関係部署が連携しながら、やっ

ていけないといけないという意識は持っているつもりであり、今の中国軍管区の防空施設としても、平和推進部の立場で観光政策部とも連携しながら、課題があれば一つずつクリアしていく方向でやってタッグを組んでやっていきたいと思っている。文化等の発信についても急ぐ気持ちでやっていきたいと思っている。

(山本委員)

いろいろな意見を頂戴したが、私から2点話をさせていただければと思う。

1点は今、津村委員から話があった連携ということで申し上げますと、いろいろな小学校での平和資料館の開放というのがあり、これについて我々の方も教育委員会や学校と直接話をする中で、学校側もできるだけピースツーリズムという平和を視点に置いた行政ということで教育はしたいということは言っている。

一方で学校の施設内にある資料館なので、学校というのが地域や保護者の方の協力があって運営されているということを踏まえ、学校側の協力も得ながら、しっかり取り組んでいかなければいけないと思っている。その辺の理解も十分していただきたいという気はしている。

それからもう1点、この懇談会の在り方について話をいただいている。私自身、事務局を所管する立場もあるので、この懇談会自体は平和というヒロシマにとって非常に重要なコンセプトというか、キーワードを観光という視点で捉え直したときに、どういう活用ができるのか、それは観光ルートのことでもあり、施設の在り方でもあり、市民地域の調査でもあり、いろんな側面から捉え直していくという意味での懇談会と我々自身は認識しております。

そういった意味で座長からお示しいただいたこの懇談会の取りまとめ概要については、委員の方々から出していただいた意見に対して、我々として何ができるかというところは当然検討していかなければいけないわけですので、そういう懇談会からいただいた意見なり提案なりというのを、できるものは着実に実施していくというのが我々の立場であると思います。その進行管理は、懇談会があるなしにかかわらず、行政としてはやっていかなければいけないという認識でいる。

一方で渡部委員のところでありました、例えばヒロシマの将来像というか、どうあるべきかみたいな議論をやるということになると、この懇談会の範疇を超えるような話になってくるので、そういった意味も含めて懇談会の在り方というものを議論していく必要があるのではないかと思う。

(渡部委員)

今後、この懇談会はどのようなになるのか。

(山本委員)

これはまさに懇談会で進め方なり、やり方なりを意見交換して決めていただくということになると思う。

(原田座長)

今年度はまだ半年ある。この間に事務局としてどのような進め方を考えているのか。

(山本委員)

事務局として考えを整理し、次回の懇談会辺りで示せればと思っている。

(原田座長)

いろいろな議論をいただいたが、皆さんの意見を聞きながら、今後どういう形で進めていくことがよいか、課題はあまりにも多すぎる。項目の中で2つだけ形となっているが、あとほとんどが手付かずではないか。

せっかく皆さんの意見を提言し、市長にも報告をさせていただいたわけであることから、より一歩二歩進んだ格好で次につなげていきたいと、その気持ちでいっぱいである。

それから、気になったのは、オリンピックでやって来る皆さんは、平和記念公園が中心だという意見もあったが、少なくとも本川小学校平和資料館や袋町小学校平和資料館などを、被爆建造物と巡るようなルートを作らないと、資料館だけでおしまいでは納得できない。滞在時間も非常に短くなり、何をどう繋いでいくのかが課題として残ってしまう。

一つ例をあげると、展示の中で滋君の弁当箱がある。あの弁当箱の展示を見ても非常にきれいな文章でまとまっている。ところが、あのお弁当箱を寄贈してくれたお母さんの思いというのは、展示のキャプションとは違う。お母さんは自分が朝作って、しかもお国のために働くということでこれだけの弁当を作って、平和記念公園の近くの建物疎開の場所に行ったけれども、全く食べないまま骨になって帰ってきたと。こんなことがあっていいのだろうか。非常にやっぱり強い口調で私は何度も何度もお母さんから聞いているので、今でも頭の中に残っている。全部申し上げると「こんな憎いことがあっていいのか、アメリカが憎い」という言葉をお母さん何回もおっしゃった。親の気持ちというのはそこだと思う。

今のようにアメリカといろんな格好で協調体制をしていく状況の中で、アメリカ憎いなんてことを展示に書くことはできないかもしれないが、親の思いが伝わるようなことが必要ではないかと思う。

先ほど「におい」の話が出したが、においが出て、しかもその当時の悲惨な状況が資料館の中に展示されたら、恐らく100パーセント誰も入らないと思う。だから、それでいいのかという議論もあるし、一方では核兵器というのは、こんなひどい状況になるのだから絶対に起こしてはいけないのだと。よく今言葉を聞いていると、こんな思いを他の誰にもさせてはならないという言葉で締めくくられていますけど、そんななまやさしいことではないと思う。絶対にあっちゃいけないと思っている。

核兵器をなくすことに繋がっていくと思うので、核兵器禁止条約のコーナーについても、おさらいのように出されているが、その核兵器禁条約ができてきた背景や、今の各国の情勢がどうなっているのかを多くの人に見てもえるような展示にしておくべきではないか

今日の資料の一番最後のものをご覧いただきたい。

これは平和関連施設等の説明板の表示内容である。現状では、いろんな形態があるし、各

担当部局によってバラバラな状態になっている。2年前に、委員の皆さんとコースの選定の巡回をするときに、いろいろな意見があった。日本語さえ十分に書いてないもの、英語で用事されていないものも多い。それを一つの格好に統一するというのは不可能であるにしても、何か表示内容を統一する雛形があってもいいのではないかと思い、今回は例として示させていただいた。

(渡部委員)

この懇談会があるということは、私はとても大切なのではないかという認識があって、ぜひ、もうしばらくの間は、この懇談会を継続していく方向で考えたいということで、よろしくお願いしたい。

(原田座長)

ほか意見がないようなので、この程度で終了させていただく。今日もいろいろな意見をいただいたが、今後につなげていきたいと思うので、どうかよろしくお願いしたい。